

新品種候補「HT 22」

(平成18年1月)

てんさい新品種候補「HT 22」の概要	道立十勝農試、北見農試、中央農試、上川農試、北農研センター、北海道てん菜協会(ホクレン、日本甜菜製糖(株)、北海道糖業(株))
---------------------	---

1. 特性一覧表

系統名	HT 22	来歴	「HT 22」は、スウェーデンのシンジェンタ種子会社が育成した三倍体単胚の一代雑種である。平成13年に北海道糖業株式会社が輸入し、平成14年より各種試験を行った。	
特長	1)根中糖分が「スコーネ」より高い。 2)糖量が「スコーネ」より多い。		短所	1)褐斑病抵抗性が“弱”である。 2)根腐病抵抗性が“弱”である。
普及見込面積	平成18年度 2,000ha		平成19年度以降 5,000ha	
品種系統名		HT 22	モノホマレ (標準品種)	スコーネ (対照品種)
形質	HT 22		モノホマレ (標準品種)	スコーネ (対照品種)
倍数性	三倍体		二倍体	三倍体
葉姿	やや開平		直立	やや開平
葉長	中		長	中
葉数	やや少		やや多	中
葉形	楕円		皮針	やや皮針
クラウンの大小	小		小	やや小
根形	やや短円錐		円錐	やや短円錐
分岐根	少		少	少
露肩	中		中	中
根重(t/10a)	7.43(101)		7.35(100)	7.50(102)
根中糖分(%)	18.04(106)		17.09(100)	17.51(102)
糖量(kg/10a)	1,334(107)		1,250(100)	1,306(104)
アミノ態窒素(meq/100g)	1.74(93)		1.88(100)	1.67(89)
カリウム(meq/100g)	3.97(93)		4.25(100)	4.13(97)
ナトリウム(meq/100g)	0.36(73)		0.49(100)	0.33(67)
不純物価(%)	3.72(87)		4.27(100)	3.86(90)
特性検定試験				
褐斑病抵抗性	弱		やや弱(やや強)	弱
根腐病抵抗性	弱		やや弱(弱)	弱
耐湿性	中		やや弱	中
抽苔耐性	強		強	強
黒根病抵抗性	中		中	(やや強)

注1)特性検定は担当農試の成績。褐斑病抵抗性、根腐病抵抗性における「モノホマレ」の()内は品種登録時の評価。黒根病抵抗性における「スコーネ」の()内は平成17年の単年評価。

2)形態的特性は十勝農試の成績。その他は十勝、北見、中央、上川、北農研、てん菜協会(3カ所)計8カ所平均で、試験年次は4カ年(平成14～17年)。但し、平成14年中央農試のアミノ態窒素、カリウム、ナトリウム、不純物価および平成15年十勝農試、平成17年日甜は除く。()内は「モノホマレ」に対する百分比。

3)「HT 22」はそう根病抵抗性をもたないので、特性検定試験に供試していない。

2. 「HT 22」の特記すべき特徴

根中糖分が「スコーネ」より高く、糖量は「スコーネ」より優る。

3. 優良品種に採用しようとする理由

平成 12 年に優良品種に認定された「スコーネ」は、根重、根中糖分とも優れた糖量の多い品種として平成 17 年度は約 5,000ha 栽培されている。しかし、近年の砂糖を巡る情勢は、平成 17 年 3 月に策定された「砂糖及び甘味資源作物政策の基本方向」において、最低生産者価格の撤廃が示されるなど、今後一層厳しくなることが予想されることから、収益性の確保のため、さらに糖量の多い品種の導入、普及が生産者より要望されている。

「HT 22」は、「スコーネ」と比べ、根重は同程度であるが、根中糖分が高く、糖量が多い特性をもつ。褐斑病および根腐病に対する抵抗性は、「スコーネ」と同様に“弱”であるため、これらの病害に対する注意が必要であるが、「スコーネ」と同様に適切な防除を行うことで栽培することが可能である。

以上のことから、「HT 22」を「スコーネ」に替えて全道一円に普及することにより、てんさいの安定生産に寄与できる。

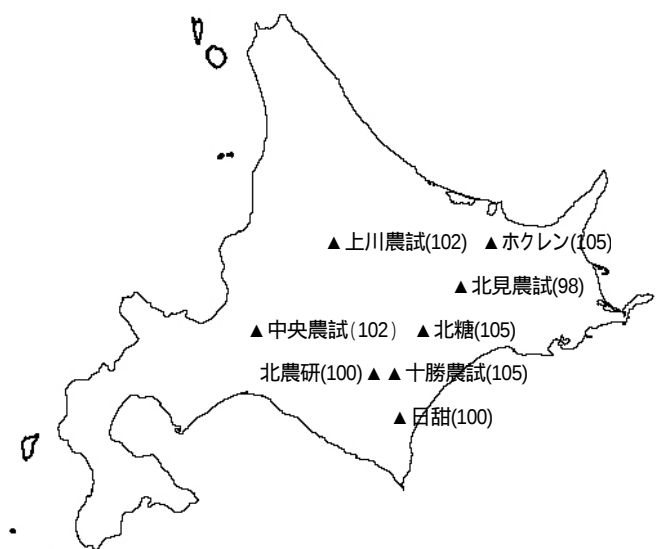
4. 栽培適地

北海道一円

図 1. 「HT 22」の糖量

(対「スコーネ」百分比表示)

▲: 輸入品種検定試験、品種連絡試験4カ年平均成績(平成 14～17 年)



5. 栽培上の注意

- 1) 褐斑病抵抗性が“弱”なので、適切な防除に努める。
- 2) 根腐病抵抗性が“弱”なので、適切な防除に努める。
- 3) 黒根病抵抗性が“中”であるが、多湿となった圃場では黒根病の発生が多い傾向があるので、排水不良な圃場での栽培を避ける。
- 4) そう根病抵抗性をもたないので、発病圃場での栽培を避ける。